

# 小樽市立朝里中学校学校運営協議会 「朝里中学校防災訓練」に関する報告書

報告者 後志教育局（社会教育指導班）

【日 時】令和5年10月29日（日）9:00～12:00

【訪問先】小樽市立朝里中学校

## 1 目的

小樽市朝里中学校区の学校運営協議会が行う「朝里中学校防災訓練」の視察を行い、管内の他の町村や学校運営協議会へ「地域と一体となった防災活動」の実践例として実践内容を広く周知し、管内の防災に関する取組の機運醸成を図る。

【朝里中学校防災訓練概要】参加者 175名（小学生、中学生、その他の地域住民の方）

〇8:30 現地到着～会場設営の様子～



会場（朝里中体育館）に到着した時にはすでに会場は設営されていました。町内会ごとに座れるイスと机が用意され、机上には演習「災害図上訓練（D I G）」で使用する地図が用意されていました。会場設営は学校運営協議会委員の方と事前に募集した有志の中学生、先生方で行ったそうです。

〇9:00 開会～地域の人と一緒に考える防災訓練～



175名の地域住民が集まって行われました。防災士の資格をもつ朝里中の金田教頭より、朝里中学校の防災教育の取組と朝里地区の災害発生リスクと避難所内部の説明がありました。その後、小樽市総務部防災対策室の安藤主幹による防災備品や備品の保管場所の説明がありました。最後に、朝里中3年生の生徒が災害学習で訪れた仙台市立荒浜小学校の様子や避難訓練の取組を報告しました。

〇9:50 災害図上訓練（D I G）／災害時の医療の心得～もし、自分の地域で災害が起きたら～



町内会ごとに分かれて、「小樽市に震度6弱」という大きな地震がおきたことを想定し、時間ごとのそれぞれが想定する行動を交流し合いました。その後、地図を活用して自分たちの地域で災害時活用できそうな場所（病院、薬局、避難所など）を確認し合いました。「自分の家の近くに災害リスクの高い川がある」「朝里地区には薬局やドラッグストアがたくさんある」など活発に話し合いがされました。図上訓練後に行われた「医療の心得について」の講話では、小樽協会病院の看護師さんから災害時に気を付けたい病気やケガ、そして食中毒の危険性についてお話がありました。

## ○11:15 自衛隊装備品についての説明～災害が起きた時のつよい味方～



今年度は、実際の避難をよりリアルに想定してもらうために陸上自衛隊の協力を得て、災害時の給食支援活動で使う機材でつくる「豚汁・ごはん」試食会を行いました。上記中央の写真の圧力鍋（長方形のもの）1台で250人分の汁物をつくることのできるそうです。



学校運営協議会委員の方が中心となり、食事が提供されました。災害図上訓練などで交流を深めた町内間の方々と子どもたちが楽しそうに食事していました。地域コミュニティのつながりや絆づくりにもつながるイベントだったと言えます。

### 【視察を終えて】

- ・学校運営協議会の活動で、地域住民が参加する事業としては大規模な取組ではあるが学校運営協議会委員の方々が役割分担しながら、先生方、有志の中学生と力を合わせて事業運営している姿が印象的でした。
- ・学校運営協議会会長の出口寿久（CSマイスター）氏からは「防災訓練は今年度で3回目となり年々内容も充実し、参加住民も増えてきている。参加した人に見聞きしたこと広めていただき朝里地区をぜひ、防災に強いまちにしていってほしい」と述べていた。
- ・住民の方にお話を聞くと参加が2回目、3回目という方も多くおり、地域の防災意識の啓発にこの取組が大きく貢献していると考えられる。
- ・これまでの防災訓練では小中学生の参加が少なく、学校運営協議会でも課題の1つとしていた。今回は企画段階から有志の中学生が運営に参画し、課題改善のために小中学生向けのチラシを作り、小学校に配布したことで参加者を増やすことができたと考えられる。

### 【参考になる情報】

- ①朝里中学校防災訓練は朝里中学校学校運営協議会（以下、朝里中CS）が主体となって行い、年間10回以上行われる運営協議会の中で熟議を重ねながら、避難訓練の企画運営の方法や役割分担について協議を重ねている。その際、多様な主体を結びつけて、事業を推進するコーディネーターの役割が重要になってくる。
- ②避難訓練を行うにあたり、北海道社会福祉協議会に後援をもらい、朝里地区連合町会と北海道科学大学との共催事業にしている。
- ③学校側では教頭先生が関係各所との渉外業務を行い、主幹教諭が有志の中学生の募集と当日までの指導を行っている。
- ④避難訓練を行うことをゴールにするのではなく、この事業を通して地域との絆づくりや地域の方にもっと学校に興味をもっていただきさらに連携や協力をしてもらうことをねらいにしている。